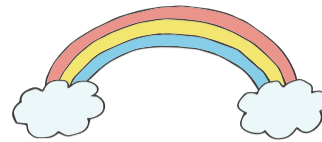


ご存じですか？

世田谷区認知症

● 認知症とともに生きる希望条例とは？

区では、認知症の本人を含む全ての区民が自分らしく生きる希望を持ち、本人の意思と権利が尊重され、安心して暮らし続けることのできる地域共生社会の実現をめざし、2年10月に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を施行しました。



希望条例について詳しくはこちら▲



● なぜ、いま「希望条例」なの？

区の現況

区の人口約92万人のうち、65歳以上の認知症の方の推計（国の推計値による）は、2022年は約3万2千人、2030年には約4万3千人と年々増加していきます。

認知症は誰もがなる可能性があり、将来、あなたもその一人になるかもしれません。



● 認知症の本人に聴こう！ 声から学ぼう！

二次元コードからご本人のメッセージ動画をご覧になれます。

診断後、間もないころは自分も家族も混乱した。付き合い方がわかり、いまはとても安定している。



長谷部 泰司さん

元スーパーマーケット関連会社社長。退職後、73歳で認知症の症状が現れ、関西から次女の暮らす世田谷へ。



自分ができることをしながらひとり暮らしを。「老人として自立した生活」を送るのがモットー。

教師として、子どもに美術を教えていた。周囲はできないと思い込んでいても、できることを支援すると子どもは伸びる！ 自分も同じ。

澤田 佐紀子さん

小中高や特別支援学級で30年以上、美術を教える。60歳を過ぎたころから、授業に困難を感じ、認知症を自覚。



決めつけないでほしい。

家にもっていてはだめ、どんどん外に出よう。オープンにしよう。



貫田 直義さん

テレビ局では多くの看板番組を制作。テレビ局社長を退職後、70歳で「ソファのうしろからゴリラが」など幻視が現れ、レビー小体型認知症と診断される。



妻とは仲良く、おたがい笑顔でいたい。



林 信之さん

大手自動車メーカー勤務後、60歳で国際特許事務所をスタート。80歳まで現役だったが、ペースメーカーを入れたころから認知症の症状が出始める。

